

令和 6 年度第 1 回羽島市健幸づくり施策検討委員会（会議要旨）

日 時	令和 6 年 7 月 19 日（金） 午後 1 時 30 分～2 時 30 分
場 所	羽島市役所 4 階 第 1 委員会室
出 席 者	（委員）出席者 13 名 田中 吉政（羽島市医師会会長）、岩田 明（羽島市自治委員会理事）、河合 悟（羽島歯科医師会会長）、小川 徹（羽島薬剤師会副会長）、稲葉 静代（保健所所長）、山田 洋子（岐阜県立看護大学教授）、浅井 廣志（羽島市民生委員児童委員協議会会長）、鈴木 登司雄（羽島市老人クラブ連合会会長）、高砂 房子（高砂学園理事長）、森山 健（羽島市小中学校長会代表）、立花 智美（羽島市総合型地域スポーツクラブ代表）、不破 直子（羽島市食生活改善連絡協議会会長）、平岩 喜美子（公募委員） （事務局）9 名 松井市長、熊崎子育て・健幸担当部長、國井子育て・健幸課健幸担当課長、横山保健政策担当課長補佐、赤嶺健幸担当課長補佐、中間予防担当課長補佐、永田健幸増進係長、岩田主査、小塚主査 （傍聴者）0 名
内 容	1 開会 2 市長挨拶 ー傍聴報告および会議の公開について説明、委員の紹介、事務局の紹介、会議資料の確認を実施ー 3 議事 （1）子育て・健幸課保健事業 令和 5 年度実績 ー事務局より資料に基づき説明（資料 1） ー質疑応答ー （委員） 子宮頸がんワクチンについて、キャッチアップ対象者の接種が 3 月末で終了するにあたり、今後、はがきを出すなどの勧奨の予定はあるのか。 （事務局） キャッチアップ対象者と今年度定期接種の高校 1 年生を対象に 7 月中に個別通知を行う。また、医師会の協力を得て、各医療機関にも啓発ポスターを掲示していただいている。 （委員） 子宮頸がんワクチンの国や県の接種率は。 （事務局）

市・国・県が全く同じ集計方法をしているわけではないため数値でお示しすることはできないが、先日行われた県の会議で、各市町の状況を把握させていただいたところ、羽島市は平均的な接種状況であった。

（委員）

妊娠7～8か月アンケート送付者293人と出生数の347人との数が違う理由は。

（事務局）

令和5年2月から妊娠中および産後の状況アンケートを実施した。妊娠7～8か月のアンケートと産後のアンケート内容が同様であったため、7～8か月のアンケートを差し控えた時期があり、数が異なっている。令和6年4月からは同数程度となる。

（委員）

口腔機能評価実施率6%、青壮年期歯科健康診査6.4%となっている。年代別受診率の傾向をつかみ受診率を高める対策をお願いしたい。また、口腔機能低下症は60歳以上に起こるわけではない。55歳にも実施をすることで健診受診率向上につながるのではないかと考える。

（委員）

妊娠7～8か月アンケートの返信者数が少ない。返信のない人こそいろいろな問題を抱えており、アプローチをする必要があると思われる。そのような方へ支援はできているのか。

（事務局）

返信のなかった方へは、妊娠中または産後に支援を実施している。産後は訪問等で必ずお会いする機会を設けている。

（委員）

産後の面会時などに、妊娠中のアンケートに返信がなかった理由をお聞きし支援できるとよい。

（委員）

骨粗しょう症予防教室や高血圧予防教室は参加者が少ない。参加される方が何を教室に望まれているのかを把握できるとよい。

（事務局）

今年度は各教室1回を予定している。教室開催の方法、内容、対象者について検討が必要であると認識している。検診の結果、その後医療機関の受診につながらない要観察、異常なしの方向けに健診後のフォローとして教室の開催を考えている。

（委員）

男性の自殺者が多い傾向との記載があるが、原因・背景などの分析やデータはあるのか。

（事務局）

原因等が分析された自殺プロファイリングが毎年届く。勤労問題、生活困窮、高齢者などといった課題がある。課題は出ているが、具体的にそこだけを改善する取り組みはターゲット絞られるため、全

体的に普及啓発を行っている。

（委員）

1歳6か月健診の経年う蝕罹患率に増減があるとなっている。子ども自身がセルフケアをしているわけではないので、保護者の関わりが罹患率に影響があると思われる。原因と対策をどのように考えているか。1歳半健診のこの数値（羽島市）は、高いと思われる。

（事務局）

10ヶ月健診時に、歯科衛生士が口腔ケアなどの指導を行い、う蝕予防に努めている。

（委員）

10か月健診で歯科健診を実施し、早い段階で指導をすることで、3歳児健診でのう蝕罹患率は、更なる低下がみられると思われるためご検討いただきたい。

（委員）

少子化対策として考えた時に、対応ができず漏れている方はいないのか。行政がすべて把握することは困難であると思われるが。

（事務局）

転入転出により、妊娠届出の数と出生数やこんにちは赤ちゃん訪問などの数がずれてくることはありますが、妊娠中の転入者には必ず面接を実施し、対応している。

（2）子育て・健幸課保健事業 令和6年度取り組み

－事務局より資料に基づき説明（資料2）－

－質疑応答－

（委員）

今後、健康教育や啓発をオンラインやネット上で視聴できるなどの仕組みや制度を築いていけるとよい。

（委員）

わかりやすい取り組みの計画を作っていた。いた。

健康に関するデータが反映されている。昨今、動画やスマホなどのデジタルツールを利用した啓発も進んでいる中で、県も健幸ポイントはアプリを使用しているところである。羽島市においてもアプリなど積極的な活用を検討いただきたい。

（委員）

羽島市の中学校では、総合型スポーツクラブの地域移行を進めており、3地域スポーツクラブを取りまとめたスポーツクラブ840（ハシマ）を4月から稼働している。

中学生のスポーツに対する取り組みが減っている中、スポーツ活動にご理解ご支援をお願いしたい。

4 閉会